

A-1 一人一人のニーズに応じる手立て

(1) 一人一人のニーズに応じる手立て

- 一つひとつの取り組みで、子どもたち一人一人が、自分は生かされたという実感、満足感を味わえるようにすることが大切。
- 今、できること、していること、やりかけていること、できそうなこと、気持ちを傾けられそうなことなどの「できること」重視で目標を見極める。
- 子どもたちの現在の様子に適合し、子どもたちが本来、やり遂げたいことがらを実現できる授業。
- 学習意欲の高まりや動機付けを大切にする指導計画。
- 活発な授業、どの子どもも主体的に取り組める授業の積み重ね。
- P D C A サイクルでの単元計画の見直し。
 - P (目標や支援内容・方法、評価規準などを明示した学習指導案作成)
 - D (児童案に沿った個に応じた指導展開)
 - C (子どもたちの学習状況の把握)
 - A (現状分析と問題を明らかにして、対策を講じる)

(2) 子どもの主体性を支えるために

① 単元計画作成に当たって

- (ア) 見通しを持てるように→これからの活動を話題にして(朝の会等)
- (イ) 意欲的に取り組めるように→単元の初めに関連した活動を(水族館見学)教室環境・掲示
- (ウ) 自分から取り組めるように→子どもの様子に合わせて仕事を分担。繰り返し行う
- (エ) 一人一人がより力を発揮できるように→子どもの能力にあわせて仕事を分担
- (オ) 活動が広がり、深まるように
- (カ) 満足感・成就感を味わえるように→単元の締めくくり



集団として共通の目標を持ち、
目標に沿って個々の子どもが生き生きと持てる力を存分に発揮し、
相互にかかわりをもって主体的に学習に取り組めるような授業



② 題材の選定にあたって

- (ア) 生活性・・・実際の生活に即した子どもの興味・関心や生活に必要な知識、技能にかかわるもの
- (イ) 活動性・・・活動のめあて、見通しの持ちやすさや十分な活動量の確保に関わるもの
- (ウ) 課題性・・・個々の子どもに対して、課題場面を設定しやすい活動の多様さ、集団としての関わりの持ちやすさに関わるもの